

1. 仮想サーバーインスタンス新環境移行手順

- 移行概要
- 移行方針 / 構成パターン / 移行パターン
- 前提条件および注意事項
- 移行作業内容

1. 仮想サーバーインスタンス新環境移行手順

■ 移行概要

- 本手順は、Smart Data Platform (SDPF) のJP5リージョンで稼働している仮想サーバーインスタンスを新環境へ移行することを目的とします。
- サポート終了し、SDPFでの新規販売が終了しているOSについては、新環境ではご利用いただけません。そのため、新環境で利用可能なOSへの切り替えが必要です。
- この手順書では、新環境で利用可能なOSへの移行するための手順を説明します。

1. 仮想サーバーインスタンス新環境移行手順

■ 移行方針

新環境への移行には、主に2つの方針があります。お客様のご利用状況に合わせて、いずれかを選択してください。

- 「インスタンスのリサイズ」および「ボリューム種別の変更」
仮想サーバーインスタンスを旧環境から新環境へ移行するために、「インスタンスのリサイズ」によるフレーバーのシリーズ変更およびボリューム種別の変更を行う方針です。

本手順は、新環境で移行元と同じバージョンのOSが提供されていることが前提となります。
新環境にて提供されていないOSの場合、本手順は利用できません。

- インスタンスのリサイズとは、仮想サーバーインスタンスを新環境へ移行するため、フレーバーのシリーズを変更することを指します。
※ シリーズについては、以下リンクをご参照ください。

[サーバーインスタンス - サーバーインスタンス：コンピュータのサイズ](#)

例：仮想サーバーインスタンス（フレーバー：1CPU-4GB）のリサイズ

	リサイズ前	リサイズ後
シリーズ	V1A	V2B
サイズ	1CPU-4GB	1CPU-4GB

- ボリューム種別の変更とは、ボリュームを新環境へ移行するために、ボリューム種別をType-Bへ変更することを指します。
例：ボリューム種別の変更（種別：Type-A）

	種別変更前	種別変更後
ボリューム種別	Type-A	Type-B

1.1 仮想サーバーインスタンス新環境移行手順

■ 移行方針

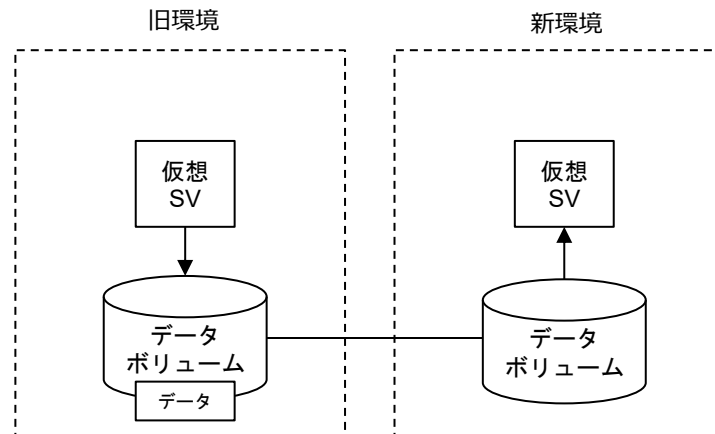
- データ移行

移行元のバックアップイメージを取得して、新環境のOSへデータを移行する方針です。

本構成を取ることで、円滑に移行元から移行先にデータを展開することが可能です。
一方で移行元に展開したミドルウェア、アプリケーション等は移行先に新規にインストールする必要があります。

各OSで利用していた機能等に関しても同様に移行対応が必要となります。
本手順では、データ移行に関する手順を紹介いたします。

それ以外のミドルウェア、アプリケーション、各OSの機能の移行手順は、提供元のベンダーにお問合せください。



1.1 仮想サーバーインスタンス新環境移行手順

■ 構成パターン別の移行方針

各移行元のOSと移行先のOSの一覧は以下の通りです。

移行元、移行先OSのメジャーバージョンが同じ、かつ新環境で提供されているOSの場合は、

「インスタンスのリサイズ」および「ボリューム種別の変更」を推奨します。

移行先のOSメジャーバージョンが異なる場合は、データ移行にて移行が可能です。

移行元バージョン	移行先バージョン	移行方針
Windows server 2012R2	Windows Server 2016*/2019/2022/2025	データ移行 ※ Windows Server 2012R2では、インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更不可です。誤って実行した場合、OS起動不可となるため、ご注意ください。
Windows server 2016	Windows Server 2016*/2019/2022/2025	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更(2016) データ移行(2019/2022/2025)
Windows server 2019	Windows Server 2019/2022/2025	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更(2019) データ移行(2022/2025)
Windows server 2022	Windows Server 2022/2025	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更(2022) データ移行(2025)
Red Hat Enterprise Linux 7+ELS	Red Hat Enterprise Linux 7+ELS/8/9	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更(7+ELS) データ移行(8/9)
Red Hat Enterprise Linux 8	Red Hat Enterprise Linux 8/9	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更(8) データ移行(9)
Red Hat Enterprise Linux 9	Red Hat Enterprise Linux 9	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更
Ubuntu / Rocky Linux / CentOS	Ubuntu / Rocky Linux / CentOS	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更

*Windows server 2016については2027年1月12日にサポート終了します。

1.1 仮想サーバーインスタンス新環境移行手順

■ 構成パターン別の移行方針

SQL Serverを含むオフィシャルイメージテンプレートをご利用いただている場合の各移行元のOSと移行先のOSの一覧は以下の通りです。

移行元バージョン	移行先バージョン	移行方針
Windows server 2012R2 +SQL Server 2014	Windows Server 2019 + SQL Server 2019 Windows Server 2022 + SQL Server 2022 Windows Server 2025 + SQL Server 2025 *	データ移行 ※ Windows Server 2012R2では、インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更不可です。誤って実行した場合、OS起動不可となるため、ご注意ください。
Windows server 2016 +SQL Server 2016 / 2017	Windows Server 2016 + SQL Server 2016** / 2017*** Windows Server 2019 + SQL Server 2019 Windows Server 2022 + SQL Server 2022 Windows Server 2025 + SQL Server 2025 *	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更(2016) データ移行(2019/2022/2025)
Windows server 2019 +SQL Server 2019	Windows Server 2019 + SQL Server 2019 Windows Server 2022 + SQL Server 2022 Windows Server 2025 + SQL Server 2025 *	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更(2019) データ移行(2022/2025)
Windows server 2022 +SQL Server 2022	Windows Server 2022 + SQL Server 2022 Windows Server 2025 + SQL Server 2025 *	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更

*Windows server 2025 + SQL Server 2025は2026年8月に提供予定

**Windows server 2016 + SQL Server 2016については2026年7月14日にサポート終了します。

***Windows server 2016 + SQL Server 2017については2027年1月12日にサポート終了します。

1.1 仮想サーバーインスタンス新環境移行手順

■ 構成パターン別の移行方針

Windows Server Remote Desktop Services SAL（以下 RDS SAL）を含むオフィシャルイメージテンプレートをご利用いただている場合の各移行元のOSと移行先のOSの一覧は以下の通りです。

移行元バージョン	移行先バージョン	移行方針
RDS SAL Windows server 2012R2	RDS SAL Windows Server 2019 / 2022 / 2025*	データ移行 ※ Windows Server 2012R2では、インスタンスのリサイズ & ボリューム種別の変更不可です。誤って実行した場合、OS 起動不可となるため、ご注意ください。
RDS SAL Windows server 2016	RDS SAL Windows Server 2016**/ 2019 / 2022 / 2025*	インスタンスのリサイズ & ボリューム種別の変更(2016) データ移行(2019/2022/2025)
RDS SAL Windows server 2019	RDS SAL Windows Server 2019 / 2022 / 2025*	インスタンスのリサイズ & ボリューム種別の変更(2019) データ移行(2022/2025)
RDS SAL Windows server 2022	RDS SAL Windows Server 2022 / 2025*	インスタンスのリサイズ & ボリューム種別の変更(2022) データ移行(2025)

*RDS SAL Windows Server 2025は2026年8月に提供予定

**Windows server 2016については2027年1月12日にサポート終了します。

1.1 仮想サーバーインスタンス新環境移行手順

■ 構成パターン別の移行方針

OracleDBを含むオフィシャルイメージテンプレートをご利用されている場合の各移行元のOSと移行先のOSの一覧は以下の通りです。

移行元バージョン	移行先バージョン	移行方針
Windows server 2012R2 +OracleDB-12.1 EE / SE2	Windows Server 2016/2019/2022 +OracleDB-19.3 EE / SE2	データ移行 ※ Windows Server 2012R2では、インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更不可です。誤って実行した場合、OS起動不可となるため、ご注意ください。
Windows server 2016 +OracleDB-12.1 EE / SE2	Windows server 2016 +OracleDB-12.1 EE / SE2	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更
Windows server 2016 +OracleDB-12.1 EE / SE2	Windows Server 2016/2019/2022 +OracleDB-19.3 EE / SE2	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更(2016)+DBバージョンアップ データ移行(2019/2022)
Windows server 2016 +OracleDB-19.3 EE / SE2	Windows Server 2016/2019/2022 +OracleDB-19.3 EE / SE2	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更(2016) データ移行(2019/2022)
Windows server 2019 +OracleDB-19.3 EE / SE2	Windows Server 2019/2022 +OracleDB-19.3 EE / SE2	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更(2019) データ移行(2022)
Windows server 2022 +OracleDB-19.3 EE / SE2	Windows Server 2022 +OracleDB-19.3 EE / SE2	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更(2022)
Red Hat Enterprise Linux 7 +OracleDB-19.3 EE / SE2	Red Hat Enterprise Linux 7/8 +OracleDB-19.3 EE / SE2	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更(7) データ移行(8)
Red Hat Enterprise Linux 8 +OracleDB-19.3 EE / SE2	Red Hat Enterprise Linux 8 +OracleDB-19.3 EE / SE2	インスタンスのリサイズ&ボリューム種別の変更
OracleLinux-7.1 +OracleDB-12.1 EE / SE2	Red Hat Enterprise Linux 8 +OracleDB-19.3 EE / SE2	データ移行

1.1 仮想サーバーインスタンス新環境移行手順

■ 前提条件および注意事項

- SDPF JP5リージョンにて仮想サーバーインスタンスメニューをご利用中であること。
- 移行方針によって、以下の前提条件がございます。お客様自身にて適切な移行方針を実施してください。

移行方針：「インスタンスのリサイズ」および「ボリューム種別の変更」

- 新環境で移行元と同じバージョンのOSが提供されていること。
- 移行元と移行先のOSバージョンが同一であること。
 - ※ Windows server 2019の仮想サーバーインスタンスにアタッチされたボリュームに対し、「ボリューム種別の変更」を行った場合、処理完了後、稀にボリュームがオフライン状態になる事象が確認されています。事象発生時はオンライン化を実施して下さい。
 - ⇒ オンライン化手順：サーバマネージャの「ファイルサービスと記憶域サービス」->「ボリューム」->「ディスク」画面にて、該当のボリュームの上で右クリックし、「オンラインにする」を選択する。

移行方針：データ移行

- 移行元に展開したミドルウェア、アプリケーション等は移行先に新規にインストールする必要がありミドルウェア、アプリケーション等の移行手順は、提供元のベンダーにお問合せいただくこと。
- 本手順では、データ移行にデータボリュームを利用します。
- バックアップおよびリストア作業に、Arcserve Unified Data Protectionを利用します。
 - ※ArcserveUDPをご利用時には、Arcserveライセンスの新規申込方法をご実施お願いいたします。手順については、以下チュートリアルをご参照ください。
(URL：<https://sdpf.ntt.com/services/docs/arcserve/tutorials/create3.html#arcserve-udp>)
- Oracle Databaseデータベースの移行には「Oracle Data Pump」を利用します。
- SQL Serverの移行には、「SQL Server Management Studio」および「sqlcmd」を利用します。
- 所要時間：移行作業にかかる時間は、データの容量やネットワーク環境によって異なります。
- 設備更改における共通のガイドラインおよび注意事項については特設サイトをご確認ください。
特設サイトURL：<https://sdpf.ntt.com/quick-start-guide/infrarenewal/>

1.1 仮想サーバーインスタンス新環境移行手順

■ 移行作業手順

- ・ 移行作業内容および移行作業詳細については、下記手順書およびユースケースをご参照ください。

1. インスタンスのリサイズおよびボリューム種別の変更

- ・ [仮想サーバーインスタンスの新環境移行（インスタンスのリサイズ／ボリューム種別の変更）手順（GUI版）](#)
- ・ [仮想サーバーインスタンスの新環境移行（インスタンスのリサイズ／ボリューム種別の変更）手順（API版）](#)

2. データ移行

- ・ [仮想サーバーインスタンス（Windows Server）のデータ移行手順書](#)
- ・ [仮想サーバーインスタンス（Windows Server + SQL Server）のデータ移行手順書](#)
- ・ [仮想サーバーインスタンス（Windows Server + OracleDB）のデータ移行手順書](#)
- ・ [仮想サーバーインスタンス（Red Hat Enterprise Linux + OracleDB）のデータ移行手順書](#)
- ・ [仮想サーバーインスタンス（Windows Server + RDS SAL）のデータ移行手順書](#)